

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
グローバル化社会における市民性教育の動向と課題		小学校・中学校・高等学校教諭	6H	講義・演習
日程	定員	講師名(所属・職名等)		
平成29年8月18日(金)	20人	生田 周二(奈良教育大学・教授) 片岡 弘勝(奈良教育大学・教授)		
会場				
奈良教育大学				
【講習の概要】				
人・もの・資金・情報等が国境を越える動きが増大すると同時に、国内外で多様性を尊重しつつ社会的な統合(社会への参加とアイデンティティの形成)を図る課題に直面するようになった。この文脈で、国内外でシティズンシップを形成するための教育(市民性教育)が注目されている。この教育においては、社会的排除と社会的包摂をめぐる諸問題に対応するため、雇用(就職)環境や社会参画とも関わって、子ども・青年の世界観、社会認識と社会規範およびアイデンティティの形成のあり方を問う実践と理論が展開されている。本講習は、シティズンシップ教育の実践と理論に関する国内外の主な動向を紹介した上で、今後の課題を考察する。その考察では、受講者自らが一定の学校・地域を想定してシティズンシップ教育の実践プログラム(骨子)を立案し、相互に交流しながら検討する時間も予定している。				
【小テーマ①】 人権を基礎におくシティズンシップ教育			1.5H (担当講師:生田 周二)	
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	欧州では、教育を通して文化的・社会的多様性を尊重し、欧州全体の社会的統合を進めることが模索されている。具体的には、国家を超える人権という普遍的価値に基づく社会の形成が目指されている。本講習①では、欧州評議会のシティズンシップ教育の理念、内容、方法を解説する。その上で、日本の人権教育にも触れながら、人権を基礎におくシティズンシップ教育の意義と課題について検討する。			
到達目標・確認指標	到達目標＝人権を基礎においたシティズンシップ教育の特徴について理解すること。 確認指標＝この点の理解に関する基本的な視点を記述することができること。			
キーワード	民主主義、人権、価値、社会的統合			
【小テーマ②】 子ども・若者の自立とシティズンシップ教育			1.5H (担当講師:生田 周二)	
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	子ども・若者の自立をどう考えるのか、家庭・学校を経て地域社会や就労環境において役割を獲得し自立していく移行過程の現代的課題は何か、教育・福祉・労働などに関わる専門職(教員、ソーシャルワーカー、カウンセラーなど)の役割と専門的能力は何か、とりわけ学校におけるシティズンシップ教育の役割と課題はどこにあるのか、などについてドイツやイギリスなどの事例を交えながら、その意義と課題を考察する。			
到達目標・確認指標	到達目標＝子ども・若者の自立とシティズンシップ教育の役割について理解すること。 確認指標＝この点の理解に関する基本的な視点を記述することができること。			
キーワード	自立、子ども・若者支援、社会への参画			
【小テーマ③】 グローバル化社会における「地域の教育力」			1.5H (担当講師:片岡 弘勝)	
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	現在の日本の子ども・青年は、情報や衣食住環境にとどまらず、生活の様々な局面で国境を越えた諸世界につながっている。同時に、「地域の教育力」もまた注目されるようになった。本講習③では、グローバル化社会における「地域の教育力」のあり方を検討する。その際、〈世界(人類)〉に開かれた〈ナショナルなもの〉のあり方を検討し、そのキーワードとして〈地域〉の自立志向の動きが子ども・青年に与える影響力(感化する力)を解説する。			
到達目標・確認指標	到達目標＝経済的、政治的、文化的な自立を志向する「地域」の動きが子ども・青年に与える感化力について理解すること。 確認指標＝この点の理解に関する基本的な視点を記述することができること。			
キーワード	グローバル化、「地域の教育力」、子ども・青年への影響力(感化する力)			
【小テーマ④】 「地域-日本-世界の現実を串刺しにする認識・学習」を考える			1.5H (担当講師:片岡 弘勝)	
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	「地域-日本-世界の現実を串刺しにする認識・学習」の発想は、1960年代に、日本の歴史学者・上原専祿によって提起され、全国的に注目された。それは、アジア・アフリカの諸民族独立との連帯を志向し、「中央圏」に対する「地域」の自立を目指すものであった。同時に、この発想は、子ども・青年の主体的な「課題化的認識」の学習と結びつけるものであった。本講習④は、この発想とその背景を解説した上で、受講者に、想定する学校・地域に即して同発想を採り入れた実践プログラム(骨子)を立案していただき、相互に交流しながら検討する時間を予定している。			
到達目標・確認指標	到達目標＝「地域-日本-世界の現実を串刺しにする認識・学習」の発想について理解すること。 確認指標＝この点の理解に関する基本的な視点を記述することができること。			
キーワード	「地域-日本-世界の現実を串刺しにする認識・学習」、主体的な「課題化的認識」			
試験方法	小テーマ①②:小テーマ②の講習時間の最後に①②の内容に即した筆記試験を20分で実施する。 小テーマ③④:小テーマ④の講習時間の最後に③④の内容に即した筆記試験を20分で実施する。			
成績評価の方法・基準等	前記した2つの筆記試験(小テーマ①②+③④)により成績評価を行う(50点(①②)+50点(③④)=満点100点)。総合点で60点以上を合格とする。			